

Ⅱ 学校経営

1 令和8年度学校経営の方針

本校の使命を果たし、附属小学校に対する教育的ニーズや期待に応えると共に充実した教育活動を実現するため、先進的かつ魅力的な学校経営に努める。

その際、次の5つを重点とし、本校のもつ人的資源や物的資源などを有効に活用しながら、課題解決を図る。

- (1) 附属学校を取り巻く現状と課題を踏まえ、今の子どもに必要な学びや育ちの場やこれからの学校の在り方について、成長主義やウェルビーイングの観点も加味して教職員の資質・能力や組織力の向上を図るとともに、大学やPTA、後援会・同窓会組織と連携した学校運営体制を再構築し、学校の在り方改革を進める。
- (2) これからの教育を担う学生に対して実践的で質の高い教育実習を行うとともに、教職大学院の中核的実践研修校としての学部との連携の充実により「教職の魅力発信基地」として積極的に発信する。
- (3) 学部・大学との共同研究体制のもと、「見つめ、共に切り拓く子どもの育成」を目指して教科や特別活動、探究的な学び等を柱に先導的な実践的な研究を学校の在り方自体を俎上に載せて推進していく。
- (4) 県市町村教育委員会等の要請に基づき、現職研修を実施するとともに、校内研修・各種研究会等への支援、公開研究会等を通じた情報発信を積極的に行い、地域における「授業創造の学び場」として、地域貢献の充実に努めつつ、「高度教職モデル校」としての研鑽を個人・チームで積んでいく。
- (5) 創立150周年（令和9年度）に向けての計画や取組を校訓や教育活動と絡めて具体化し、児童の成長につながるように多方面から意図的に活用していく。

2 学校教育目標

【校訓】 まことの子 ちからの子 のぞみの子

夢や目標をもち、共にみがき高め合う子どもの育成



見つめよう！

共に！

切り拓こう！

～ 学びと育ちのステージ 鹿附小 ～



3 努力事項

(1) 校務運営の改善・充実

- ア 本質思考とフラット思考の両輪によるボトムアップ体制の確立を掲げ、日々の教育活動の推進をはじめ、喫緊の課題解決や危機管理対応、校務運営改善や附属小の将来計画策定に至るまで、個人やチームでエージェンシーを発揮しつつトライすることを重視してゼロベースでの改善・改革に努める。
- イ 「心理的安全性の確保」や「選択と集中」の視点を重視し、各係や主任等の縦や横の報告・連絡・相談・確認を意図的・計画的に行い、校務分掌の機能化に努めることで学校力の向上を目指す。
- ウ 自己申告や業績等評価のシステム活用や1on1ミーティングの意図的・積極的設定により、教職員の自己研鑽意識と技量を高めるとともに、一人一人の資質・能力の自律的向上を促す。
- エ 適正な労務・勤務管理については、「働きがい改革」をキーワードとして、自己決定・自己判断を重視した自律型の適切な労働環境の確保を定期的な見届けと見直しを管理職が率先して推進する。
- オ 予算の適正で効果的な執行及び教育的環境の整備・充実を学部にも効果的に働きかけながら推進する。

(2) 教育課程の改善・充実

- ア 「見つめ、共に切り拓く子どもの育成」の実現に資する各教科や各領域等の指導計画をPDCAサイクルに則りつつもよりフレキシブルな編成・実施・改善に努める。
- イ 本校の強みである試行的・先導的な研究・実践を「余白の創出と自己決定」をキーワードに教育計画や指導計画の編成・実施においてもフレキシブルに積み上げていく。

(3) 学年・学級経営の充実

- ア 子どもの発達特性や実態等を踏まえ、横や縦の連携を重視し、危機管理や特別支援教育の視点に立った多角的・多面的な学年・学級経営を行い、目指す子どもの姿を具現化する。

- イ めざす学校・学級・教師の姿を全職員で共有し、学級における共感的・支持的な人間関係づくりに努め、いじめを容認しない学校・学級づくりを行う。その際、「答えは子ども一人一人の中にある」を合い言葉とし、納得感・ワクワク感・手応え感をどうよりよく発揮させるかを重視していく。

(4) 確かな学力の定着と向上

- ア 各教科等の見方・考え方を働かせた深い学びを実現する学習指導の充実に努める。
- イ 子どもの学力や学習状況を的確に把握し、特別支援教育の視点を取り入れた個に応じた指導の充実に努める。
- ウ 各教科等において「見つめ、共に切り拓く子どもの育成」をキーワードに実践的研究を蓄積する。

(5) 心に届く生徒指導の充実

- ア 人権教育の視点を基盤に「心のアンテナ」を発達特性に併せて具現化し、道徳教育やボランティア活動、読書活動、各種体験活動を関連付け、自己効力感を高め、豊かな心の育成を図る。
- イ いじめの未然防止、不登校傾向等の教育相談の充実に努める（いじめ防止対策委員会、児童支援・問題対策委員会の活性化、Q U等の調査の積極的活用、スクールカウンセラーの積極的活用）。
→いじめの早期発見・即対応・早期解決（チームを基本とする複数対応、報連相の強化）
- ウ 相手へ心を開くことの現れとしての挨拶の重要性や登下校時の通学マナー（車内、道路歩行等）を学校生活の延長と捉え、美しき言動を価値付けることで顕在化させ、指導の徹底を図る。
- エ 児童情報の共有化や保護者の学びの機会の拡充等を通して、基本的生活習慣の確立や問題行動の未然防止に努める。
- オ 自主性や主体性育成につながる児童会活動や委員会活動、学級活動になるよう工夫・改善する。

(6) 健康・安全教育の充実及び危機管理・危機対応の徹底

- ア 運動習慣の確立を始めとした基本的生活の見直しと行動計画・実践化を家庭や関係機関と連携・共有して進める具体的な手立てを講じる。
- イ 体力・運動能力を高める教科体育・学校行事等における子ども一人一人の目標達成に向けた取組と支援・見届けの工夫・改善に努める。（登山や持久走、日常の体力づくり）
- ウ 安心・安全な学校給食運営と日常の給食指導を通じた食育の充実と工夫に努める。
- エ P T Aとの連携による危機対応マニュアルや引渡し訓練、災害対応備蓄品の整備、防災給食の実施により危機管理体制や安全・防災に係る指導の充実に努める。

(7) 教育研究・職員研修の推進・充実

- ア 先進研究については、日々の実践とつなぎ、学校の在り方改革を意識しながら推進し、2回の学校公開や現職研修視察等をアウトプットの場として活用しながら深化を図っていく。
- イ 教育学部が県教委と連携して進める離島へき地教育への貢献に併せて本校の複式教育の深化を図る。具体的には、授業づくりだけではなく、学級経営や人間関係づくり等についてもノウハウを蓄積して県下の複式・小規模校と連携して実践化し、積極的に交流する。
- ウ 本校の学校の在り方をシンボルティックに具現化した総合的な学習の時間における「マイ・プロジェクト(マイプロ)」を情報教育との兼ね合いで深化させつつ、理論・実践両面で世にアピールしていく。

(8) 鹿児島大学教育学部教育実習の充実

- ア 5月の学校公開を皮切りに、年間を通じた教職の魅力追求の視点からの第1免許教育実習、第2免許教育実習、高度化実践実習Ⅰの意義や目的を大学と共有して進め、実習生に対する指導効果を高める。
- イ 児童に対する教育効果を高めるとともに、効果的・効率的な教育実習の運営に努める。

(9) 人権教育・特別支援教育の充実

- ア 他者への感謝の念や相手意識を高めるよう教育活動や日常の学校生活を意図的・計画的に展開することで、学校全体で人権重視のマインドを確立する。
- イ 大学や附属特別支援学校と連携し、校内支援体制、研修体制の確立、コーディネーターの機能化、個別の指導計画、合理的配慮に係るきめ細かな指導など、特別支援教育の充実に努める。

(10) 開かれた学校づくりとP T A活動の充実

- ア H Pや学校インスタ、学校だより等による情報発信を積極的に推進し、開かれた学校経営に努める。
- イ P T A活動が持続可能でやりがいが高まるよう活動の工夫・改善を図るとともに、創立150周年に向けた組織化を進める中で、P T A及びちからの会、同窓会組織等との緊密な連携による教職員と保護者を始めとした関係者との信頼関係の深化や活動の活性化を図る。